



京都市学校歴史 博物館だより

VOL.

8

平成16年2月発行



企画展

「日本初の幼稚園は京都にあった」

開催期間/平成16年1月30日(金)～3月30日(火)

明治2(1869)年、京都では、我が国最初の学区制小学校である番組小学校が64校設立されましたが、同じ年、「幼児の教育に関する布達」が出され、幼児教育の重要性が説かれました。

そして、明治8(1875)年、日本初の公的幼稚園として、当時の上京第三十区柳池小学校に「幼稚遊戯場」が創設されました。

今回の企画展では、こうした京都の幼稚園の草創期から概ね戦後期までの歩みを、我が国の幼稚園制度の変遷と関連づけて、主に京都市立幼稚園に大切に伝えられてきた資料を中心に紹介し、京都における幼児教育の歴史と人々の努力の足跡をたどります。

また、第1展示室の一部と第3展示室において、「幼

稚園のたからもの」と題して、著名な芸術家等から寄贈された京都市立幼稚園に伝わる名品を展示します。

①各時代の資料・教材・教具・遊具

- ・「柳池幼稚遊戯場概則」 明治8年 元柳池幼稚園蔵
- ・「修了記念写真アルバム」 明治30年代 開智幼稚園蔵
- ・園名扁額「楊梅幼稚園」 明治22年 榎本武揚 楊梅幼稚園蔵
- ・教科書「幼稚園唱歌」 文部省 明治20年 元日影幼稚園蔵

②幼稚園に伝えられてきた美術工芸品

- ・陶磁器「遊猿掛額」 六代清水六兵衛 元日影幼稚園蔵
- ・陶磁器「油滴皿」 清水卯一 元豊園幼稚園蔵
- ・絵画「伏見人形を売る店」 徳力富吉郎 楊梅幼稚園蔵
- ・絵画「薔薇園」 安田謙 伏見板橋幼稚園蔵(元豊園幼稚園蔵)

③触れるコーナー

- ・大正期のオルガン



「豊園幼稚園にて 第一思物を使って」
明治44年頃



「第一思物 六球法」
元日影幼稚園蔵

併設展示

「幼稚園のたからもの」



「女雛」大木平蔵 元豊園幼稚園蔵



学校歴史博物館が 大きく生まれ変わりました。

～展示スペースを大幅に拡充。まさに新たな博物館の誕生です。～

昨年の11月、平成10年の開館から5周年を迎えた学校歴史博物館では、新たに第2展示室を開設するとともに、これにあわせて廊下や階段部分も展示スペースとするなど、**展示機能を飛躍的に拡大**させて、大きく生まれ変わりました。

我が国最初の学区制小学校である番組小学校を創設した伝統をもつ京都の学校には、貴重な歴史資料や、我が国を代表する作家たちの手になる美術工芸品が数多く伝えられています。学校歴史博物館はこれらを集集保存するとともに展示公開し未来に伝えることを使命とした**全国に例を見ない施設**です。

開館以来これまで、できる限り数多くの資料を公開し、それらが質量ともに素晴らしいものであり、京都の学校の歴史と伝統の賜物であることを多くの方々に知っていただいたところです。しかしながら、やはりもっと多くの資料を観覧したい、あるいは著名な作品を常時観覧したいなどの声をいただき、これらを踏まえ、**展示のあり方を検討**してきたところです。

今回の**展示スペースの大幅な拡充**は、こうした声にお応えしていくとともに、博物館の使命を果たしていくう

でさらに大きな力を得たものであります。学校歴史博物館ではこの機を新たな出発点として、これまで以上に多彩な事業を展開し、**京都の教育の歴史的意義をより幅広く多角的に伝える博物館を目指し取組を進めてまいります。**

見やすくなった
展示品



広がった展示スペース

開催報告

開館5周年・第2展示室新設記念事業

開催期間/平成15年11月6日～平成16年1月27日

京都市学校歴史博物館では、開館5周年・第2展示室新設を記念して、平成15年11月6日から約3箇月にわたって記念事業を開催しました。

まず、特別展として「こんなにある学校のたからもの～京都市立学校に伝わる名品のかすかす～」(開催期間：平成15年11月6日～16年1月27日)を開催しました。この特別展では、地域の人々や芸術家などから京都市立学校に寄贈された作品のうち、著名な芸術家の作品で、寄贈経路が興味深い作品を中心に展示を構成しました。今回の特別展では、第2展示室(約180㎡)の新設により、「号数の大きい作品」や「未公開作品」を数多く展示することが可能となりました。その結果、延べ約90点の美術工芸品をご覧頂くことができ、京都独特の「芸術家と学校」、「芸術家と地域」との強いつながりを浮き彫りにすることができました。

また、11月15日には当館上田正昭館長による記念講演

「古代の日本と東アジア～最近の研究成果をめぐって～」、同月22日には榊原吉郎京都市立芸術大学名誉教授による講演「京都市立学校の名品を語る～日本画の世界～」を開催しました。どちらも、定員を超える申し込みがあり、熱のこもった講演会となりました。(詳細は3ページ参照)

京都市学校歴史博物館では、今後とも機能の充実を図り、多彩な事業を展開する博物館を目指してまいります。



記念講演から



開館5周年・第2展示室新設を記念して平成15年11月15日に上田正昭館長の記念講演「古代の日本と東アジア～最近の研究成果をめくって～」を開催しました。

様々な研究の結果、日本の歴史や文化をこの島国の日本の中だけで考えるのではなく、広くアジアの中で考えるほうが、日本の実際の姿がはっきり浮かび上がってくるはずだということが明確になってきているという観点から、具体的な研究成果について説明がありました。

—日本に渡ってきた渡来人が日本の歴史や文化の発展に大きな役割を果たしていることは、東大寺の大仏開眼供養を行った中心人物が百済から日本に渡ってきた子孫であることから明らかである。そして31年前の1972年に奈良県明日香村で高松塚古墳が発掘され、中国、唐で作られた鏡と同じ鋳型で作られた海獣葡萄鏡が見つかった。また壁面に描かれている女性は高句麗の壁画古墳に描かれている服装と類似している。

戸籍がなくて、「帰化」すべき統一国家がない弥生時代に「帰化」という言葉を用いることは歴史事実と反するから、「帰化」ではなく「渡来」という言葉を使うべきである。

また日本の神道の世界にも、東アジアとつながる信仰がある。例えば明日香村で発掘された亀石は、道教の不老長生を示しており、東アジアで亀を聖なる動物として信仰していたことは、中国の山東省にある沂南画像石に描かれた神山を支える亀の姿や高句麗の好太王碑文にも書かれている亀の神話から明らかで

ある。

日本古代史の発掘の成果を見ていくと、東アジアの関係を無視して考えることはできないということがはっきりとしてきた。

会場には、約300人の方々が熱心に聴き入っていました。

11月22日には、京都市立芸術大学名誉教授、榎原吉郎氏の講演会「京都市立学校の名品を語る～日本画の世界～」を開催しました。

京都の日本画は明治時代に西洋画が入ったことで大きく変化したという美術史を背景に、特別展「こんなにある学校のたからもの」に展示中の数々の日本画を、作品毎に詳しく説明して頂きました。



「こんなにある学校のたからもの」展より

京都市学校歴史博物館学芸員 秋山 美津子



特別展「こんなにある学校のたからもの ～京都市立学校に伝わる名品のかずかず」は展覧会名がすべてを表しています。作品リスト作成はまず名鑑類で評価の高い作家をチェックすることからはじめました。そうすると、かつての「学校のたからもの」展（平成12年 京都新聞社共催 京都市美術館別館にて）の著名な作家の作品の部とあまり変わりませんでした。そこで、有名な作家の小品よりもサイズが大きく力強い作品を加えるように選択していきました。今まであまり展示する機会がなかった現存作家の力作も紹介でき、開館5周年にして初公開という作品が20点以上ある展覧会になりました。

作品の配置には分類を設定せず、添え書きも、構図や筆触といった美術作品としての解説は加えず、主に学校との関わりを述べるにとどめています。全体として作品が学校に伝わった経緯を概観すると、(1)作家からの寄贈、(2)学区の人からの寄贈が主です。(1)の場合、寄贈先はだいたい作家の母校であるか居住区の学校であるかです。(2)の場合は、制作者は京都のこともあります。それら以外には学校の教員などの寄贈が見られます。寄贈の契機は50周年記念や100周年記念、校舎新築などが多いようです。また、本来学校のものとなる予定ではなかったものがあります。これらは学校創立以前の建物に存在していたものや、町組合所にあったのではないかと考えられます。

さて、今回の陳列作品の半数以上が日本画です。それを見ると一口に日本画といっても今日の日本画がかつてのものとは違っていることにお気付きになるでしょう。今日の日本画の多くは色面と色調を主体とし輪郭線が見えません。当館の常設展

示では、明治の小学校教育で京都の学校がいち早く毛筆画の授業をはじめたことを紹介していますが、それを基準とすれば今日の日本画は筆線を見ることができない画法です。しかし、そこで私が芸術学を専攻してきて肝に銘じている恩師からの教えをお伝えしたいと思います。「作品の価値というのは一つの基準だけではかるものではない。何に眼をつけてやればその作品を評価できるのかを考えるのが仕事である。」ということです。作品を見るとき、「あれが良くてこれが悪い」というのではなく、「あれも良いこれも良い、ただ違うところに目をつけなければわからないことがあるだけ」と考えることを心がけたいものです。



「カーネーション」安井曾太郎 元生祥小学校蔵



昔の学校あれこれ

第二回

卒業写真

京都市の小学校で卒業写真を撮るようになったのは、明治21年からです。

それまでは試験を受けて進級し、各級を終了することに卒業証をもらっていたため、卒業する時期がそれぞれ違いました。同級生がそろって卒業するという現在のようになったのは、明治19年に小学校令が公布され、同20年に開校した尋常小学校が学年制になり、翌年6月卒業式をむかえた時からです。

当時はまだ写真撮影が一般的ではなかったため、カメラを直視するのを嫌がり横を向いて写っている人たちもいました。

右の写真は明治21年、知恩院の石段で撮影された乾尋常小学校の卒業写真です。



京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町弘光寺下ル横町437 (元開智小学校)
TEL.075-344-1305 FAX.075-344-1327 〒600-8044

- 入館料/大人200円 子ども(高校生以下)100円
(20名以上の団体/大人160円 子ども80円)
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間/9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/水曜日(休日の場合は翌日)
12月28日~1月4日



ひと・まち・ロマン 元氣都市・京都

交通 ACCESS

- 阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス/「四条河原町」駅下車 河原町通より西へ二丁目(御幸町通)より南へ歩5分